

司法省日誌

十

明治七年九月



日本史籍協會編

司法省日誌

明治初期各省日誌集成

東京大学出版会

十

明治七年九・十月

司し法ほう省しょう日誌にっし十
明治初期各省日誌集成 第一期

昭和五十九年六月三十日覆刻

編者 日本史籍協会

代表者 森谷秀亮

東京都三鷹市大沢二丁目十五番十六号

発行者 財団法人 東京大学出版会

代表者 田中英夫

一一三 東京都文京区本郷七丁目三番一号
振替東京六一五九九六四

電話(八一)八八一四

印刷・株式会社 平文社

本文用紙・王子製紙株式会社

クロス・望月株式会社

製函・株式会社 光陽紙器製作所

製本・矢嶋製本株式会社

39102

ISBN4-13-093910-6

資料は国立公文書館所蔵本による。

日本史籍協會編

司法省日誌

全二〇卷

A 5 判

平均四六〇頁

各価六〇〇円

明治初期各省日誌集成第一期

卷	年	代	刊行月	卷	年	代	刊行月
1	明治六年一・二月	58年	9月	11	明治七年二月	59年	7月
2	明治六年七・八月		10月	12	明治七年三月		8月
3	明治六年八・九月		11月	13	明治七年索引		9月
4	明治七年一月		12月	14	明治八年一月		10月
5	明治七年二月	59年	1月	15	明治八年二・三月		11月
6	明治七年三・四月		2月	16	明治八年四・九月		12月
7	明治七年五月		3月	17	明治八年〇・三月	60年	1月
8	明治七年六月		4月	18	明治九年一・二月		2月
9	明治七年七・八月		5月	19	明治九年三月		3月
10	明治七年九・〇月		6月	20	明治九年四・五月		4月

司法省日誌

十

目次

明治七年九月

第四百四十五號	(九月三日)	一
第四百四十六號	(九月七日)	二
第四百四十七號	(九月十日)	四
第四百四十八號	(九月十四日)	六
第四百四十九號	(九月十九日)	八
第四百五十號	(九月二十日)	一〇
第四百五十一號	(九月二十日)	一二
第四百五十二號	(九月二十二日)	一四
第四百五十三號	(九月二十三日)	一六
第四百五十四號	(九月二十五日)	一八
第四百五十五號	(九月二十七日)	二〇
第四百五十六號	(九月二十八日)	二二
明治七年十月		
第四百五十七號	(十月二日)	二四
第四百五十八號	(十月二日)	二六
第四百五十九號	(十月五日)	二八
第四百六十號	(十月五日)	三〇
第四百六十一號	(十月八日)	三二
第四百六十二號	(十月八日)	三四

第四百六十三號	(十月九日)	三六
第四百六十四號	(十月十日)	三八
第四百六十五號	(十月十日)	四〇
第四百六十六號	(十月十三日)	四二
第四百六十七號	(十月十三日)	四四
第四百六十八號	(十月十四日)	四六
第四百六十九號	(十月十七日)	四八
第四百七十號	(十月十九日)	五〇
第四百七十一號	(十月十九日)	五二
第四百七十二號	(十月二十日)	五四
第四百七十三號	(十月二十二日)	五六
第四百七十四號	(十月二十四日)	五八
第四百七十五號	(十月二十四日)	六〇
第四百七十六號	(十月二十七日)	六二
第四百七十七號	(十月二十七日)	六四
第四百七十八號	(十月二十八日)	六六
第四百七十九號	(十月二十九日)	六八

司法省日誌明治七年第四百四十五號

○九月三日

（白川縣伺）

七年八月二日

聽訟課事務刑法民法兩裁判上ニ關スル目安糺初席拇印
申渡等正權曲事廢官後ハ正權參事ニテ取扱候ハ勿論ノ
儀ニ候所當縣ノ儀ハ百般改正ノ際明治六年十二月ヨリ
同七年五月迄ハ權令一名ニテ内外頗ル煩雜同月來權參
事赴任致候得共管内巡廻或ハ出京等ノ御用打續キ爾後
トテモ其實ハ一名同様ニテ難訟疑獄ノ外ハ臨席鞫問難
行屆昨六年中御省日誌後第三十七號三重縣ヨリ太政官
第二百八十五號ヲ以テ府縣官中正權曲事ヲ廢セラレ云

云ノ伺書ニ代理ノ儀ハ伺ノ通罪案ハ臨席鞫問ノ官員姓名ヲ載スヘシトノ御指令ヲ援引シ正權大屬ノ内ヲ以テ右事務代理爲取扱罪案等ニモ其姓名ヲ登記致來候然所本年第十四號御省御達聽訟上原被告ヨリ差出ス所ノ証據物ニ記載スル姓名押印モ支廳又ハ事務煩忙ニテ令參事ノ内親シク臨席鞫問難相調節ハ同斷代理シテ其姓名モ實際臨席鞫問ノ官員ヲ記載不苦儀ニ候哉又ハ罪案登記トハ事更リ令參事ノ姓名ニ相限り候儀ニ有之候哉若シ果シテ然ラハ管内天草人吉ノ如キハ限ルニ山海ヲ以テシ風雨等ノ都合ニ依リ容易ニ往復難相調依之曾テ支廳ヲ置キ原被告共其支廳下ニ歸スル訴訟ハ熟談濟口迄

ノ順序ハ該地出張ノ判任官ヲシテ爲取扱候所其採用不
採用ヲ判決スルハ目安糺ノ時ニ有之其答書ヲ取ラサル
前原告人ヲ以テ本廳へ差出候儀ハ現實難被行候條御指
令相伺候也

指令

檢閱印ハ令參事ニ限ル可シト雖モ該地出張ノ判任官令
參事ノ代理タルモハ其判任官ノ檢閱印ニテ不苦事

〔京都裁判所伺〕

七年七月

山城國葛野郡岡村百姓中山喜左衛門儀父喜左衛門存命
中去ル嘉永五年子六月同郡下山田村玉村亡嘉兵衛ヨリ
讓受ノ名ヲ以田地六箇所買得シ其地所他村ニ係ルヲ以

テ父喜左衛門妻ノ弟下山田村山口平右衛門へ小作相任
セル所數年作德米淹滞ニ及フノミナラス田地ヲモ差返
サス其折柄父喜左衛門死亡旁以明治三年庚午四月相續
人當喜左衛門ヨリ叔父平右衛門へ係リ作德米并田地取
戻ノ儀京都府へ訴出ル所同府於テ吟味ノ末同年九月右
詞訟ハ證據混亂致スノミナラス田地賣買ノ法則ニ背キ
且叔父平右衛門ヲ告ルハ千名犯義タル趣意ヲ以田地取
揚閉戸三十日ノ處刑ニテ裁決相成所昨明治六年十二月
本年四月再度前書叔父平右衛門へ係リ難澁ノ儀訴出ル
ニ據右ハ最前京都府ニ於テ裁決ヲ受タル以上ハ平右衛
門へ對シ今更彼是申分ハ有之間敷旨一應理解ニ及フ所

承服致シ尙亦去月中京都府オイテ裁決ノ次第何分ニモ
屈伏致シ難キ旨ヲ以更ニ再吟味ノ儀願出若シ採用相成
ラサル節ハ司法省裁判所へ控告イタシ度旨別紙訴狀寫
ノ通りニ候然ル所民刑トモ裁判上ノ御規則未タ確ト不
被爲立折柄トハ乍申京都府ノ處分相當ノ事トモ不被存
候ヘ_ル裁決以降既ニ三年八月ノ久シキヲ經今日ニ至リ
不服ヲ聲ラス等不都合不少加之控告ノ儀ニ就テハ兼テ
御布告ノ次第モ有之且ハ民事刑事ノ差別モ可有之筋ト
被考傍右ハ直チニ探上ケ司法省裁判所へ差廻シ可然モ
ノニ候哉別紙訴狀寫_之相添相伺候也

指令

民事ノ控訴ナレハ司法省裁判所ヘ差廻ス可キ筈ナレ共
 當件ハ昨明治六年九月一日以來已ニ定期ノ時限ヲ經過
 シタル事故採用及ハサル旨并ニ當件ハ刑法ヲ以テ處分
 シタル趣モ有之刑法ノ控訴ハ不相成法律ニ付右民刑兩
 法トモ何レニテモ今日控訴ノ道ナキ筈合ヲ申聞ケ訴狀
 下ケ戻スヘキ事

○

東京裁判所ヨリ七年七月武藏國足立郡遊馬村一行寺住職大
 瑞事村田佐吉東京四ツ谷寺町三村勘助等處斷伺ニ佐吉
 ハ常人官ノ財物ヲ盜ム者贓金二百五十圓以上懲役終身勘助ハ盜
 賊窩主條其強竊盜及ヒ畧賣云々竊盜ニ准シ從ト爲シテ

論ストブルニ擬シ冒認ノ賍ヲ併セ百十圓以上懲役七年
ニ減一等同五年等ノ指令アリ

○九月四日

〔第二十三號布達〕 輪廓付

各 裁 判 所 各 府 縣

金穀ヲ借り返濟ヲ爲シ能ハサル者裁判所ノ處分ニ因リ
身代限ニ遭ヒ候トキ所有物ノ内他人ヘ貸附置キタル金
穀ノ證文之レアル節ノ取扱振明治五年壬申第四十號ヲ
以テ相達置候所詮議ノ次第有之左ノ通り改正候條此旨
相達候事

第一條

各裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ爲スニ當リ身代限ニ遭
フ者ノ物件ノ内ニ身代限ニ遭フ者ヨリ他人ヘ貸付置キ
タル金穀ノ證文有之時ハ其證文ノ定約期限ノ滿未滿ヲ
論セス證文ニ記名シタル負債主ヘ眞偽ヲ尋テ無相違時
ハ其負債主ヨリ證文面ノ通り可受取旨身代限ニ遭フ者
ノ債主ヘ申渡シ別紙雛形ニ倣ヒ證文ニ裏書ヲ爲シ其債
主ニ可相渡事

第二條

前條ノ場合ニ於テ債主ソノ證文ヲ受取ルヲ好マサル時
ハソノ證文ハ身代限ニ遭タル者ニ所持致サセ置ク可キ

事

但シ定約満期ノ證文ニテ負債主ノ家産些少ナルモ身代限ニ遭フ者ノ債主ニ於テソノ負債主ノ身代限ヲ以テ現金ノ割賦ヲ受度旨申立ルニ於テハ望ノ通り處分ス可キ事

第三條

債主數名ニシテ身代限ニ遭フ者ヨリ他人ヘ貸附置キタル金穀ノ證文一通又ハ數通ナル時ハ數名ノ債主ニ入札致サセ落札ノ金員ヲ以テ其落札シタル債主ト其他ノ債主トヘ金高ニ應シ配當シソノ落札ノ證文ニハ一通毎ニ第一條ノ方法ニ依リ處分ス可キ事

但シ數名ノ債主盡ク入札ヲ好マサル時ハ第二條ノ處分ニ及フ可キ事

第四條

證文ヲ落札シタル債主證文ニ記名シタル負債主ヨリ金ヲ受取リタルハ其金員中ヨリ己レノ受取ルヘキ金高ト之ヲ受取ルニ付テノ諸入費ノ金高トヲ引去リ其餘金ハ證文ニ記載シアル債主ニ返シ而シテ右ノ計算ヲ爲シタル明細勘定書ト餘金ヲ返シタル受取書トヲ以テ裁判所ニ届出ツヘキ事

第五條

若シ證文ヲ落札シタル債主證文ニ記名シタル負債主ヨ

リ金ヲ受取ントスルニ證文ニ記名シタル負債主モ亦タ
身代限ニ遭ヒテ證文ニ記ルシタル金員ノ全部又ハ幾部
ヲ返シ能ハサルキハ證文ニ記名シタル負債主ヨリ證文
ヲ落札シタル債主ニ對シ右ノ部分ノ金員ヲ身代持直次
第返濟スヘキ旨ノ證文ノ裏書ヲ裁判所ヨリ受取ルヲ得
ヘキ事

但此時曩ニ身代限ニ遭タル者ノ裏書證文ヲ持出ヘシ
裁判所ニ於テハ之ニ金員ノ差引ヲ記載シ二通ノ證書
ヲ一綴ニシテ下附スヘシ

第六條

證文ヲ落札シタル債主證文ニ記名シタル負債主ヨリ金